



あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第 174 号 2022 年 1 月 10 日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

1月号
2022



ベテルギウス玄関
お正月の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
2021「第14回やまと国際アートフェスタ」

入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは～笑顔のために～

やまと国際フレンドクラブ賞受賞

丹波 乃葵 さん

大和東小学校（2年）《日本》

タイトル：「せかいのみんなとチアでえがおに」

メッセージ：わたしがならっているチアダンスは、みんなに元気とえがおをあたえるものなので、それをせかいの人とおどったら、せかい中が元気にえがおになれると思ってかきました。

「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で
毎年催されています。

*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら
「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

令和4年度 協働事業等提案 の事前相談

☆市民等と市が協力して事業を実施し、社会に貢献する「協働事業」について、4月に「協働事業提案」を募集します。現在、この提案の事前相談を受け付けています。

相談期間：令和4年3月12日（土）まで

（日曜日、毎月第3月曜日を除く）

対象となる事業：社会に貢献する非営利の事業

相談申し込み：市民活動センター（046-260-2586）



遊び人(びと)の中間支援人を目指して(Fの初夢)

居場所は「公民館」から、「Social cafe bal」へ

アトリエ風キッチンと出会う

2021年11月、Fは写真撮影に来たK市のフラワーセンターを訪ねた帰り道、午後2時過ぎだったろうか、ランチをこの店でしようと決めていたFは通る道を往路と変えたせいで、その店を見失う。

Fは日頃、初めて訪ねた街、あるいは撮影で訪れたところでは、ピンときた店に入り、まず「ビールやワインを飲んで、料理を注文するのをポリシーとしていたが、通り過ぎた道を引き返して探すことよしとはしていなかった。

果たして、手前のカレー屋さんの誘惑に負けずに前へと歩くと、アトリエのように素敵なかの「入ってみたいな」と思われるおいしそうな看板が目に止まった。「うーん、ここで食べよう。でもケータリング専門？」Fは迷った。ケータリングをしてますみたいな看板だったからだ。

でも、奥には座れるテーブルやソファーがある。「あのー、ランチ食べられますか？」と誰もいそもない中を覗きながら言うと、「どうぞ」という若い女性（Tさんと後に知ることになる）の元気な声がキッチンカウンターから返って来た

「ほんとは5時からなんですよ、いいですよ」とTさん。「ほんとは5時」の意味はよく分からぬFだが、ビールとランチプレートを注文した。旬の野菜を使った色鮮やかで、幸せなランチだった。「やった！あたり」と思って1枚板の大きなテーブルに一人で食べていると、その後3組が、「あの、ランチできますか？」というお客様がやってきた。みんな、フラワーセンターの帰りに寄った人。丁度、秋薔薇の見ごろの最終盤で、賑わっていたのだ。



お客様が来るたびにTさんは、「ほんとは5時からなんですよ、いいですよ」と答え、カウンター席に座らせた。ぼくは、大きなテーブル席に一人で座っていたけど、「相席もいいですよ」とは言わなかった。

ランチ中、水を注ぎに来た彼女は、一眼レフをテーブルに置いていたぼくに、「今日は何を撮ったんですか？」と声をかけてきた。

「薔薇と菊」と答えると、彼女は、小さなファインダーを覗き込んだ。「うわー、すてき」と感激してくれ、Tさんとぼくはフェイスブックで繋がった。必然の様に。この後、キッチンカウンターに出入りしてい

た、がっしりした体躯の男性がこの空間のオーナーで農家さんであると彼女との会話から理解した。

これがFとTさんとの出会いである。一見で入った飲食店の人とフェイスブックでつながることは普通ではない。これはご縁と思い、Tさんに連絡して、12月中旬の夕方おじやました。その日はカウンターにぼくの他に4人。その中にオーナーがいた。

メニューはなく、前菜のプレートと主菜が出た。

それに、オーナーが釣ってきたお魚（イシモチ）を使った手作り蒲鉾と仕入れた福島の純米吟醸酒を振舞ってくれた。蒲鉾はお節に使うという。市販のちょっとゴム感のあるものとは違い、薄味で、おさかな感があって美味だった。

オーナーは「ここは、まだ居酒屋じゃないんですよ」と言う。「え、そうなんですか？」。

「だから、Fさんが通ってくれたら、居酒屋もオープします」というので、今年は、ここに通って、美味しい野菜料理とお酒を味わいたいとFは思っている。

Y市R文化会館がFの原点。
近未来に必要なのは、Social cafe bal

Fが今で言う「居場所」と出会ったのはF市のC公民館。図書館併設の施設で語学教室などの主催講座などを受講していたが、小学生時代の图画工作の恩師が講師の「シルクスクリーン年賀状」講座のアシスタントをしたときや、公民館区の「ふるさとマップ」のイラストを描いたときに、地域活動は楽しいと感じた。

その後、FはY市役所に勤務し、社会教育関連の仕事をS文化会館勤務時にスタートした。次いで在籍したR文化会館時代に上野の「国立社会教育研修所（当時）」に長期研修、社会教育主事の資格を取った。

当時、Fは公民館まつり等のイベントは「実行委員会」形式で行うこととし、「会館報」の編集人を公募するなど、市民参加の走りのようなこともしていた。

特に、子ども実行委員が運営する夏休みイベントで、大人が支援しながら、「お化け屋敷」を作つて運営したり、H市のM公民館カンチョーから、当時はやっていたミニ四駆のコースを譲り受けたレース運営をオタッキーな若者に任せたなど、それはもうハチャメチャ？（本人にそんなつもりはないらしい）

閑話休題。市民活動やコミュニティ・カフェの話をする前に、紙面が尽きてしまった。

Fは、これからは、こうした公共空間を自由に、誰もが、楽しく、遠慮せずに、居心地のよい場所にするために、さまざまなセクターの想いのある人が団結する必要があると思っているそう。遊び人(びと)を自認するFは、そういう空間で、結果的に多様な人を繋ぐ中間支援（プロボノ紹介）人になりたいとのこと。

その先駆の場をFは今回訪ねたアトリエ風キッチンに見た。アルコールも飲めるし、お金も動く「Social cafe bal（利潤追求ではない）」。この続きは、「あの手この手」2月号「先駆の人を訪ねて」第3回、小山紳一郎さんのインタビュー記事中で語られる？

どうぞよろしく 新人スタッフ紹介

今年から大和市民活動センターの仲間になりました
佐々木優韻（ゆい）と申します。

中国の北京に生まれ育ち、25年前留学生として日本の大学院で先端科学技術を勉強し就職しました。初めての市民活動は息子の出産を機に子育て支援のイベント Read Me Mom、旧生涯学習センター（現ベテルギウス）での英語絵本の読み聞かせでした。その後 市民活動推進補助金のおかげで、大和の各学習センターでこの活動を続けています。

大和は私の第二の故郷です。夏の風物詩阿波おどりが大好きで大和に住むことになりました。歴史がある日中友好協会、おやこ劇場、ウクレレ俱楽部…気が付いたらこんなに入ってました！中国語や英語のスキルを活かし、国際文化交流など様々なボランティア活動に積極的に参加しています。座右の銘：

“If you light a lamp for someone else, it will also brighten your path.” 好きな言葉は：ありがとうございます、大きな夢：世界平和。

「拠点やまと」で交流のネットワークがひろがれば嬉しいです。どうぞ宜しくお願ひいたします。 佐々木優韻



明治のお菓子寄贈プログラム 今年もたくさんのお菓子を子ども達へ届けました



毎年、クリスマスの時期に「明治ホールディングス株式会社及び同社株主様は社会貢献活動の一環として障がいのあるお子さんを対象としている活動団体にお菓子の寄贈を行っています。当センターではNPO法人サポートハウス ワン・ピースさんを推薦しました。

ワン・ピースは放課後等デイサービスの3事業所を運営し、大和市内在住の発達やコミュニケーションにつまづきのある小中高生約220名の児童生徒が週1~2回通って自分の思いの伝え方やコミュニケーションの取り方などを練習しています。

大好きなmeijiのチョコやビスケット、ジュースに子どもたちは目を輝かせて大喜びです。いつもとはちょっと違うお菓子でクリスマスや新年のワン・ピースがいつも以上に楽しくなります。ワン・ピースでは保護者の負担を軽減するためにおやつ代は集めていません。meijiさんのお菓子をいただき経営的にも助かっています。

今後も子どもたちが持てる力を發揮して活き活きと生きていけるように支援を続けてまいります。
ありがとうございました。

NPO法人サポートハウス
ワン・ピース 理事長 滝本美知留

イベント・セミナー・募集情報

会員出演型・高学年部・臨時例会

音楽の散歩道～命と平和と音楽と～

日時：2022年1月30日（日）19:30開場
20時開演 21時終演

会場：シリウスメインホール

舞台監督/実沢誠一郎

スタッフ/堤恒星

会員も特別会費：1人800円

大和南部おやこ劇場 TEL：269-2247

大和北部おやこ劇場 TEL：276-1395



大和市市民活動拠点ベテルギウス内

市民活動ブース「部室」

令和4年4月1日～6年3月31日までの入居を募集

市民活動ブース「部室」概要・利用条件

※高さ2.2mのパーテーションによって区切られた半個室で、「部室」ごとに照明と電源コンセントがあります。
※利用できる団体は、以下の条件を全て満たす必要があります。

- ・福祉、文化、芸術、スポーツ、環境美化活動等を行う市民活動団体であること
- ・市民活動拠点ベテルギウス内の他の団体等と交流ができる団体であること
- ・部室タイプごとの必要構成員数がいること
- ・構成員の半数以上が、市内に在住、在学、在勤するものであること。あるいは市内に所在地を有する非営利の法人であること
- ・代表者が成人であること
- ・部室1室は1団体で利用すること

申し込み期間：1月29日（土）まで

※1室に対し複数の団体から申し込みがあった場合、
公開抽選を実施します。2月5日（土）14:00～

「部室」配置図、部室料等詳細は
市民活動センターまで、お問い合わせください。



ファミリーサービスセンター（FSC）やまと 講演会

傾聴 一基本に戻って

日時：2022年2月26日（土）14:00～16:30

会場：大和市保健福祉センター4階

定員：13名またはZOOMで参加

講師：日本傾聴ボランティア研究センター

理事 中村 純子 氏

参加費：無料 ★ロールプレイもあります

主催：申込み先（2月24日まで）

ファミリーサービスセンター（FSC）やまと

TEL：046-272-1331

E-mail：familyserviceyamato@gmail.com



やまもり☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより

『やまとっこ☆みつけた』



第392回 12/7(火)

「タムタムランニングクラブ」

代表 佐藤 心雄さん



「タムタムランニングクラブ」は2014年3月9日（サンキューの日）に設立、現在27名の会員が在籍しています。順位やタイムなど結果が重視されがちな陸上競技ですが、指導者として的確な指導と心に寄り添う姿勢を大切にしたいと語る佐藤さん。「タムタム」はスワヒリ語で「楽しい」という意味。その名通りメンバーが互いに応援し合いながら走ることを楽しむクラブを主宰する他、大和みらい陸上教室アドバイザー、湘南ビーチランアンバサダーとしても活躍しています。



FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00～10:00 同日再放送 15:00～21:00～

1/18(火) 394回 「RUN伴やまとプラス」

2/1(火) 395回 「やまと国際オペラ協会」

2/15(火) 396回 「NPO法人 ブラービ」

TSUBASA'sトーク 第3回「公園での卒論執筆と『思わぬラッキー』」

①時間のかかる卒論執筆は、公園で乗り切れる？

図書館、カフェ、学習塾など、家の外で勉強や作業をするスペースは様々ですが、私は最近、そうした場所に公園を選び、3月の卒業に向けてノートパソコンで卒業論文を執筆しています。

卒論にはアライグマについての研究を、苦手な英語でまとめなくてはならず、執筆には月単位で時間がかかるてしまします。そこで思いついたのは、



公園で執筆すれば、集中力が長続きしたり、新しいアイディアが浮かんだり、さらに嬉しい偶然「思わぬラッキー」で気分が盛り上がりたりして、執筆を乗り切れるのではないか、ということです。そうした「思わぬラッキー」に遭遇した、大和市の泉の森、練馬区の光が丘公園、調布市の神代植物公園での体験を紹介します。

②大和市の泉の森で、観察池の新たな一面に気づく

大和市の泉の森は実家から近いので、朝食前に執筆することもあります。もともと早起きの習慣のために思い立ったことなのですが、実際にやってみると公園内にある自然の新たな一面に気づきました。

面白いことに、冬の朝の観察池は、水面に日中には見られないモヤがかかり、多くの水鳥が集まっていました。鳥たちと一緒に朝日を眺めながら、執筆を進め、1日の活力が湧いてきた気がしました。



観察池のモヤ AM7:30

③地域のお祭りで活力をおそそ分けしてもらう



友人と巡った屋台友人が公園管理のアルバイトをしており、半分冷やかしのつもりで訪れた練馬区の光が丘公園には、芝生の広いスペースがあり、そこにレジャーシートを敷いて執筆しました。嬉しかったのは、偶然、地域のお祭りが訪れた日に重なり、小学生によるチアリーディングなどの舞台パフォーマンスや、色々な食事の屋台が開かれていたことです。執筆終わりに友人と屋台を巡ったことで、地域の一員としてお祭りに混ぜてもいい、活力をおそそ分けしてもらっている気分になりました。

④植物公園で初冬のカエデ園に見惚れる

調布市の神代植物公園には、学校が閉まっている日曜日に、たまに訪れます。入園料がかかりますが、学校に近く、テーブルが多いので執筆しやすいのが特徴です。

「冬の植物は落葉していて、つまらない」と思っていましたが、気分転換で散歩したカエデ園では、落葉した後の枝先と、わずかに残る赤い葉、初冬の澄んだ空が重なる様子に、思わず見惚れてしまいました。執筆に使う時間もついたなく感じるほどでした。

公園での執筆の甲斐あって、12月末、卒業論文の初稿を提出することができました。今後も外に出れば出会いがあることを心に留めておきつつ、最終稿まで執筆を続けたいです。（サポートー尾畠翼）



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第174号 発行日：2022年1月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokoyoten.com/